

CGで天下人の城を再現

佐賀県立名護屋城博物館を視察しました



名護屋城は、豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）に際して出兵拠点として築かれた城です。秀吉も1年あまり在陣しました。1592（文禄元）年の開戦から秀吉の死で諸大名が撤退するまで、7年の間大陸侵攻の拠点となりました。



名護屋城・城下町復元模型

わすか数ヶ月で完成。城の面積は約17haにおよび、名護屋城を中心とする半径3kmには、130以上の諸大名の陣屋が建てられ、人口20万人を超える城下町が出現しました。

江戸時代初期に石垣が広範囲にわたって崩され、建物は現存しません。

佐賀県立名護屋城博物館は2015年4月1日から、タブレット端末等を用いて再現CGを見ながら名護屋城跡と諸大名の陣屋、城下町を散策できる「バーチャル名護屋城」を始めました。

特に名護屋城跡では、バーチャルリアリティ（VR）によって、名護屋城の壮大な姿が甦ります。位置情報に合わせて、当時の風景を再現し、移動すれば、まわりの景色も動くので、420年前の空間を散策している気分になります。

周辺地域にも、50か所以上のビューポイントを設定しており、ビューポイントを中心に、360度のパノラマ映像が当時の姿で出現しますので、タブレット端末等をあちこちにかざして楽しむことができます。

また、博物館を起終点として、謎解きをしながら名護屋城跡を巡るアプリ「肥前名護屋城の謎を解く」を制作しました。

博物館では、タブレット端末の貸出（400円）を行っており、たくさんの方にご利用いただいています。

「VR名護屋城」「名護屋城巡り」「肥前名護屋城の謎を解く」の3種類のアプリを、お手持ちのスマートフォンなどに無料でダウンロードできるサービスも提供しています。

駿府城のCGで天守台復元の気運を高めたい



第一建設(株)代表取締役社長
市川 照 さん

建設部会の九州視察会で7月22日、念願の名護屋城を訪れ、地元ガイドと一緒に城跡を巡る「バーチャル名護屋城ガイドツアー」に14名で参加しました。

建物が何もない風景に、ガイドの指示でタブレット端末をかざすと、ポケモンGOと同じ原理で、風景の中に門が現れ、自分が動く風景も動き、ごくごく迫力があり、久々に感動しました。

駿府城公園でも、CGを使って「わあ、すごい。こんな城があったんだ！」と大勢の人たちに知らせたい。ガイド料とタブレットの貸出は有料でもよいですね。テレビで育った世代は、字で読むよりも、写真や映像で見たほうがわかりやすい。駿府城公園が観光名所になるといいと思います。

スマートフォンやタブレットで当時の駿府城のCGを見た人は、天守台復元への気運が高まりますから、募金箱を置いておけば、寄付してくれると思います。そういうふうにして世論を高めていって、大勢の人たちが天守台の再建を望めば、天守台の復元が早く実現できると思います。